Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー ：日本古代・中世政治文化論I ILAS Seminar :Politics and Culture in Ancient and Medieval Japan I	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Institute for Liberal Arts and Sciences Professor,YOSHIE TAKASHI		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences	Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2024・First semester	Quota (Freshman)	12 (12)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors	Days and periods	Fri.5
Classroom	12, Yoshida-South Campus Academic Center Bldg. West Wing	Language of instruction	Japanese		
Keyword	日本古代史 / 平安時代 / 外交 / 王朝貴族				

（Students of Faculty of Integrated Human Studies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.）

[Overview and purpose of the course]

【日本古代史研究書入門－社会・文化】
１冊の研究書を受講者全員で輪読し、日本の社会・文化に対する歴史的思考力を高めることを目指す。大学生や一般の人を読者層として想定した、簡易で比較的新しい書籍を取り上げるが、記述の背景を調べ、根拠となっている文献史料の原典を読解することによって、記述内容を批判的に検証する。そうした作業を通じて、歴史に対する思考力・感覚・想像力を磨くことを目指す。
今期は、渡邊誠著『王朝貴族と外交』を取り上げ、平安時代における外交の様相について考える。

[Course objectives]

古代・中世の日本の歴史に関して正確で幅広い知識を獲得するとともに、文献史料の原典を自分の力で読解し、提示された学説を吟味して、自分の見解を対置する能力や、歴史像を組み立てるための技術を身につける。

[Course schedule and contents)]

寛仁３年（１０１９）に「刀伊の入寇」と呼ばれる異族襲来事件が起こると、日本は、関係悪化を避けようとする高麗に対して警戒を強め、「敵国」視する姿勢をとった。こうした姿勢の前提には、政治外交から離脱する中で対外的軍備を解体していったという１０世紀初頭以来の日本の状況があり、高麗に対して脅威を抱いた日本は、三韓征伐伝説を起点とする歴史認識を表出させることとなる。このような歴史認識とは関係のない中国に対しても、国際政治から離脱するという日本の外交姿勢は貫徹していた。他方、消極的な外交姿勢は、貴族たちの間に自尊意識の肥大化をもたらしていった。後白河院や平清盛が行ったとされる宋との外交も、基本的にはこうした姿勢の枠組みの中で理解されればならず、当時の外交を「開国的」「開明的」な政策などとして捉えることはできない。
渡邊誠著『王朝貴族と外交』を輪読しながら、こうした平安時代における外交の様相を把握する。
あわせて、根拠とされる資料を分析し、内容の可否を検討する。

第１回　イントロダクション
第２回　平安時代の歴史像と対外世界
第３回　刀伊の入寇からみた外交関係／東北アジア情勢からみた刀伊の入寇
第４回　神国思想の成り立ち

Continue to ILASセミナー ：日本古代・中世政治文化論I(2)↓↓↓

第５回　九世紀の日本と朝鮮半島／十世紀の半島情勢と「積極的孤立主義」
第６回　「敵国」意識の高揚／呉越との交流
第７回　宋初の中国と日本／成尋の入宋と皇帝の賜物
第８回　異国牒状問題にみる貴族の政治／宋の積極外交と日本の対応
第９回　高麗医師派遣要請問題
第１０回　日本の返牒と対外観
第１１回　日本人の海外渡航の禁止／南宋の成立と日本
第１２回　後白河・清盛の日宋交渉の舞台裏
第１３回　王朝貴族の外交のゆくえ
第１４回　総　括
《期末試験》
第１５回　フィードバック
　※上記の各回の内容は取り上げる書籍の目次による。

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

平常点（授業内での報告および発言・５０点）と期末試験（レポート・５０点）の合計で成績評価する。

[Textbooks]

渡邊誠『王朝貴族と外交　国際社会のなかの平安日本』（吉川弘文館）ISBN:978-4-642-05967-1（2023年刊行、1800円＋税）

[References, etc.]

（References, etc.）
Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

全体の進行をあらかじめ通知するので、各回の輪読個所を読み、授業内容を想定しながら予習をすること。

[Other information (office hours, etc.)]

授業はゼミ形式で、発表および質疑への参加が必須である。